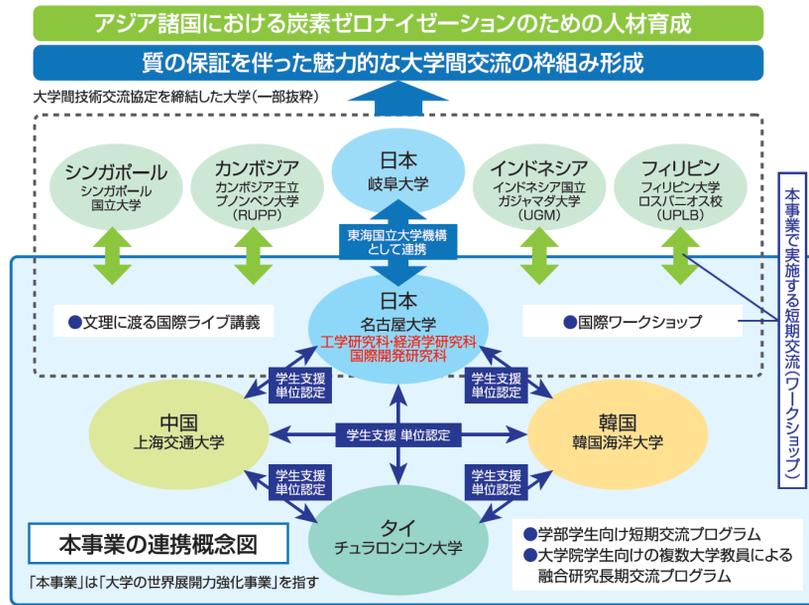


大学の世界展開力強化事業(2021年度選定) 名古屋大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2021年度・(タイプB①))
 アジア諸国における炭素ゼロナイゼーションのための人材育成
 【交流推進事業の概要】

名古屋大学国際連携教育プログラムの概念図



【交流プログラムの概要】

SDGsの1課題である炭素ゼロナイゼーション社会の実現は、国際社会が一体となって早急に取り組むべき人類共通の課題である。本交流プログラムでは、将来の持続可能なアジアを、地域協働で創造していくための、産業界、官公庁、アカデミアで活躍する国際的炭素ゼロナイゼーションリーダー人材の育成を目的とする。これまでの特定の工学領域に留まった研究・教育を超えて、課題解決型の複数の技術の融合研究プログラム、ならびに炭素ゼロナイゼーションやSDGsに関わる経済学、国際開発学等の協同による文理横断の工・理学教育プログラムを推進する。さらに、英語によるディベートを伴った国際ワークショップや講義等を提供し、質保証を伴った国際連携教育プログラムの確立を行う。

【本事業で養成する人材像】

炭素ゼロナイゼーションに関連する工学・科学分野の専門的知識・技術を熟知するとともに、他分野との緊密な連携によって広い視野と論理的思考力を持ち、豊かな人間性や高い倫理性、文理に渡る学際的な見識とグローバルな視野とを兼ね備え、将来のアジア諸国における炭素ゼロナイゼーションやSDGsなど人類の持続可能な発展に深く貢献できるリーダ人材を養成することを目標とする。

【本事業の特徴】

①短期・長期プログラムとともに、工学分野の講義のみならず、炭素ゼロナイゼーションに関連する経済学、国際開発学といったカリキュラム(オンライン;国際ライブ授業)を提供する。②ワークショップでは、経済学や国際開発学を学ぶ文系の学部学生、理系の学部・大学院学生と英語をネイティブとする学生との英語での炭素ゼロナイゼーションに関連する本格ディベートの場を提供し、単に研究開発に終始するのではなく社会とのつながりを地域性として捉えることができるフィールド学の場合として提供する。③質保証を伴った短期(学部学生)から長期(大学院学生)にわたる多国間での交流プログラムの提供・実践と複数の大学間国際連携体制と受入・派遣の手法を標準化し、国際的な異文化共修の体制と制度を確立する。

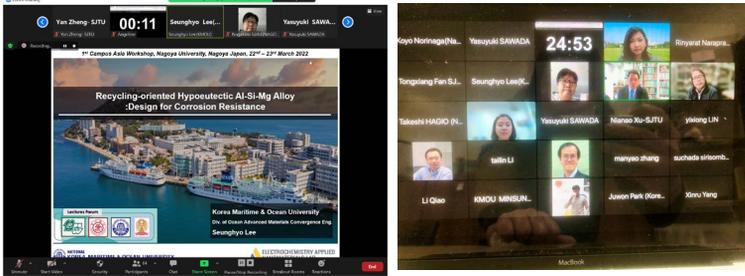
【交流予定人数】

		2021	2022	2023	2024	2025
派遣	実際に渡航する学生	2	2	2	2	2
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	20	25	35	45	45
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	5	5	5	5
受入	実際に渡航する学生	6	6	6	6	6
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	60	105	135	135	135
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	15	15	15	15

1. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【アジア諸国における炭素ゼロナイゼーションのための人材育成】(採択年度 令和3年度)

■ 交流プログラムの実施状況



〈ワークショップにおける参加者の様子〉

令和3年度における本事業の交流プログラムは、コロナ禍による政府の渡航制限の影響を受けたため、学生の実渡航による交流は実施されなかったが、日本・海外との双方向を前提としたインタラクティブな授業環境の整備は実施できた。また、令和4年3月にはワークショップをオンライン開催し、名古屋大学・チュラロンコン大学・上海交通大学・韓国海洋大学校から学生を含めた発表者を集め、炭素ゼロ社会実現に向けた議論・討論の場を設けることができた。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

令和3年度についてはコロナ禍による渡航制限のために実渡航は実施されなかったが、令和4年度に向けた取り組みの一つとしてオンラインによるチュラロンコン大学との計画の確認を実施した。

○ 外国人留学生の受入

実渡航が困難な状況だったために対面での受け入れは実施されなかった。しかしながら、令和4年度に向けた取り組みの一つとして、チュラロンコン大学から受け入れ予定の学生とのオンラインでのディスカッションや、特に来日後に実施する研究計画についての議論を交わした。

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	22	25
学生の受入	66	45

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本プログラムには学生の到達度に重点を置き、コミュニケーション能力やリーダーシップを含めた成績評価を行う。の連携大学とは、単位互換制度等を通じて基盤的な質の保証を確保する枠組みがある。また、実質的な質保証として、様々な企業・公的機関等の協力を得て、短期受入プログラム中に企業インターンシップやフィールドワークを実施している。座学により習得した知識をもとに、企業スタッフとの議論やプレゼンテーションを経て、学問的な本質と東南アジアの現場を知ることで、活用性の高い知識を習得することができた。



〈新たに設置した講義室〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

海外への実渡航ができなかったことから、オンラインでの双方向なコミュニケーションができる講義室の整備を行った。特に、演者と参加する学生や講義室の雰囲気と同時に発信できるカメラの設置や電子黒板、また受講する学生一人一台が利用できるタッチパネルとスタイラスペンを導入し、インタラクティブな授業が実現できる環境を整えた。



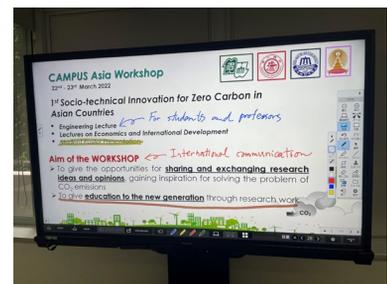
〈2つのカメラを用いて講義が可能〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況情報の公開、成果の普及

本事業を通して、タイ、中国、韓国の参画大学以外の大学からも少なからず問い合わせや本プログラムを知って参画外からの研究生・大学院学生の入学希望の連絡が増えてきている。次年度以降に向けて日本語・英語のホームページの公開ならびに活動内容の発信を実施する準備が整っており、積極的に行う予定にある。

■ グッドプラクティス等

ワークショップでは、本プログラムに参画している経済学研究科の教員から経済学系の話題の講義も紹介された。さらに、各国の大学から学生が自身の研究紹介をするなど、分野横断的なディスカッションができ、各国の大学の教員からの高い評価を得た。



〈電子黒板によるインタラクティブな講義が可能〉